

令和6年10月29日

松本市議会

議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員長 犬飼 信雄

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会において行政視察を実施しましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

1 期日

令和6年10月17日（木）、18日（金）

2 参加者

市役所新庁舎建設特別委員15人、理事者2人、事務局随員2人 合計19人

3 視察先及び調査項目

- (1) 埼玉県春日部市議会
市役所新庁舎建設について
- (2) 千葉県千葉市議会
市役所新庁舎建設について

4 概要

(1) 埼玉県春日部市

ア 日時 令和6年10月17日（木）午後1時45分～午後3時45分

イ 場所 春日部市役所

ウ 対応者

春日部市議会 副議長 栗原 信司 氏

春日部市財政部管財課長 小峯 崇弘 氏

春日部市財政部管財課 主任 印南 栄史 氏

ほか 春日部市議会事務局職員 3名

エ 内容

(ア) 春日部市の概要

埼玉県の東部に位置し、都心まで35kmの距離にあり、東武アーバンライン（東武野田線）と東武スカイツリーライン（東武伊勢崎線）の2路線が交差し、都心へのアクセスも良く、高度経済成長期以降ベッドタウンとして発達してきた。人

口は22万人で本市とほぼ同じだが、面積が66km²と本市の978km²に比べて大変コンパクトにまとまっている。桐たんす、桐小箱、羽子板の産地として知られ、フジが市の花になっている。アニメ「クレヨンしんちゃん」の舞台

(イ) 新庁舎の建設について

a 建替えの経過

本庁舎の建設から50年近くが経過し老朽化が進む中、平成23年の東日本大震災では庁舎の一部にひび割れが生じた。補修工事を行ったが、耐震診断の結果、震度6以上の地震に対し倒壊の危険性が高いと診断されたため、耐震化の方向性の検討が開始された。耐震補強と移転建替えについて、庁内検討委員会、市民アンケート、市役所本庁舎耐震化有識者会議において意見の聴取と議論を重ね、平成26年に本庁舎の「移転建替え」を決定。平成26年9月には、春日部市本庁舎整備審議会を設置し、基本理念と基本方針を取りまとめた「春日部市本庁舎整備基本構想」を平成27年5月に策定した。

基本構想では移転候補地を2か所に絞り、基本計画で詳細に検討することとし、本庁舎の機能や規模、事業手法、スケジュールを検討し、平成28年5月に春日部市本庁舎整備審議会からの答申を受けた。

平成29年2月には基本設計・実施設計を進めるにあたっての考え方を示す「春日部市本庁舎整備基本計画」を策定。計画策定時のパブリックコメントでは119人351件の意見が寄せられた。

平成29年3月定例会で、旧市立病院敷地を新本庁舎の位置とする「春日部市役所の位置を定める条例を一部改正する条例」が可決され、移転先が決定した。

平成29年9月から平成31年3月に基本設計、令和元年6月から令和3年2月に実施設計を策定（㈱久米設計に委託）し、その間も市民懇談会や市民アンケートを行った。

工期は令和3年8月5日から令和5年9月15日まで。施工業者は大林組・東武建設・正和工業 特定建設工事共同企業体。令和6年1月4日に供用開始した。

b 新庁舎の概要

旧市立病院跡地に建設。レストラン棟とコミュニティ棟を併設した本庁舎と、旧市立病院の東棟をリノベーションした第二庁舎からなる。

- ・ 敷地面積 11,929 m² 建築面積 5,383 m²（第二庁舎、車庫棟、ステージ含む）
- ・ 延床面積 24,261 m²（第二庁舎、車庫棟、ステージ含む）

新本庁舎 建築面積 3,956 m²、庁舎延床面積 14,771 m²
地上6階、免震構造

第二庁舎 旧市立病院を改修
建築面積 1,250 m²、庁舎延床面積 6,702 m²
地下1階・地上6階、耐震構造

- ・ 整備事業費 112.9億円（新本庁舎の建設費、第二庁舎の改修費、外構工事費含む）。クラウドファンディングで約5,600万円集める。

c 基本理念・基本方針

基本理念を「人に優しく災害に強い市民に親しまれる庁舎」とし、基本方針を「人に優しい庁舎」、「災害に強い庁舎」、「環境・経済性に配慮した庁舎」、「機能的で効率的な庁舎」、「春日部市にふさわしい庁舎」とした。

まず、「人に優しい庁舎」として、誰もが利用しやすく分かりやすい機能的な庁舎を目指し、19課、農業委員会、水道部春日部営業所、2担当に分散していた市民窓口を集約し、利便性の向上を図った。また相談機能を充実させるため、各課が利用する個別相談室を32室と2倍に増やし、相談室、窓口カウンターも十分な数を設置した。他、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮し、来庁者がくつろげるスペースを配置するなどした。

「災害に強い庁舎」としては、新本庁舎に免震構造（球面滑り支承・鋼製ダンパー）を採用し、災害時に継続的に災害対策拠点としての役割を担えるように1階をピロティ駐車場に、2階以上を執務室とした。また、大会議室が災害対策本部室として機能できるように、テレビ及び60インチの大型ディスプレイ2台を設置した。非常用発電機では通常の50%の電力を72時間供給できる。

「環境・経済性に配慮した庁舎」としては、環境に優しく次世代に繋げていける永く使える庁舎を目指した。新本庁舎については、外壁面や屋根面への高断熱化、高効率空調システムの導入、自然エネルギーの有効利用（ナイトバージ、自然換気、太陽光発電、雨水利用）等により、一時消費エネルギーを40%削減した。また外壁には長期にわたりメンテナンスが不要となるチタン亜鉛合金板を採用。埼玉県建築物環境配慮制度最高位のSランクを、建築物省エネルギー性能表示制度の最高ランク5つ星の評価を取得した。

「機能的で効率的な庁舎」として、執務エリアには大判テーブル型のデスクレイアウトを取り入れ、使用目的に合った打合せスペースをデスクスペースの近くに配置することで業務処理の効率化やコミュニケーションの活性化を図った。また、職場研修や説明会、打合せに利用できるミーティングラボを設置。2階には会議室を配置し、市民も含めた利用に配慮した。

「春日部市にふさわしい庁舎」としては、まちのシンボルとしての庁舎、まちと人を繋げる庁舎を目指した。具体的には、「まちのコモンスペース」として、ひだまりホール、かすかべっ子ルーム、まちなかひろば、レストラン棟を設置し、行政手続き以外でも市役所に集える場所をつくった。

ひだまりホールは、発表会や講演会等に利用できる150人収容できる室内スペースで、飲食・飲酒もできるため土日も含め多くの利用がある。

かすかべっ子ルームは、本市のこどもプラザのような施設。

まちなかひろばは、ステージを活用したイベントやフリーマーケットに利用できる野外スペースで、8月には納涼祭を開催し千人以上の来場があった。

これらの施設は、年末年始を除く土日祝日も利用可能となっている。

d その他、質疑等

新庁舎の規模を検討する際、職員数は基本設計時（平成27年度）の職員数

735 人を用いた。一人当たりの床面積は、総務省起債対象事業費算定基準、国土交通省新営一般庁舎面積算定基準、この当時庁舎を建設した他市の事例を参考に算定し、21,000 m²とした。現在の職員数は約 800 人、会計年度任用職員も含めると 1,000 人になる。

市の花であるフジ、桐箱、鳳等、市の特産を庁舎内の壁や案内表示、天井等に取り入れ春日部市らしさを出していた。

(2) 千葉県千葉市

ア 日時 令和 6 年 1 0 月 1 8 日（金）午前 9 時 2 5 分～午前 1 1 時 3 0 分

イ 場所 千葉市役所

ウ 対応者

千葉市総合政策局危機管理部防災対策課 課長 田中 剛志 氏

千葉市財政局資産経営部新庁舎整備課 課長補佐 峯 勝彦 氏

ほか 関係職員 2 名、千葉市議会事務局職員 3 名

エ 内容

(ア) 千葉市の概要

県のほぼ中央に位置し、東京湾に面している。都心から約 4 0 km、成田国際空港・東京国際空港から約 2 5 ～ 3 0 km 圏内にあり、千葉市を起点・終点とする幹線道路や鉄道も多く県内交通体系の結節点になっている。

戦後に本格的な工業化が進み、造成された埋め立て地など臨海部を中心に工業集積が進んだ。また、工業進出による人口増大への対応や首都圏のベッドタウンとして、公有水面の埋め立てを行い、臨海部や内陸部郊外において、公団等による大規模団地の造成が進んだ。

平成 3 年以降、業務核都市として、千葉都心及び幕張新都心の整備をさらに進め、平成 4 年に政令指定都市となり、中央区をはじめとする 6 つの行政区を設置しそれぞれに区役所を置き、市民に身近な行政と魅力ある区づくりを推進した。市域面積は約 272 km²、人口 9 7 万人。

市内にはアジア地域有数の国際見本市である幕張メッセを中心に、ホテルや大型ショッピングモール、アウトレット、球場などが集積している。

(イ) 新庁舎の建設について

a 建替えの経過

東日本大震災の発生により一時業務が中断するなどし、改めて本庁舎の在り方が問われることとなり、平成 2 3 年度に市内部で課題と対応について検討を行う。平成 2 4 年度には「本庁舎整備方策検討基礎調査」を実施。基礎調査では課題解決には本庁舎敷地に新築または増築により集約することが望ましいとの結論になり、平成 2 5 年度には千葉大学工学部による第三者評価を実施した。

平成 2 6 年から本格的に新庁舎建設に向けた検討が始まり、4 月には付属機関として千葉市本庁舎整備検討委員会を、6 月には市議会に新庁舎整備庁舎特別委員会が設置された。

平成 2 6 年 1 1 月に 1 万人市民アンケート行い、「千葉市新庁舎整備基本構

想」を策定。平成27年6月に「千葉市新庁舎整備基本計画」を、平成28年5月に「千葉市新庁舎整備基本設計方針」を策定した。

平成29年11月に新庁舎整備調査特別委員会から出された「新庁舎整備の進め方に関する要望書」の趣旨を踏まえ、概算事業費（約307億円）、設計・施工一括発注によるDB方式とする等の事業方針が決定した。

工期は令和2年6月から令和5年1月まで。

基本設計は、久米設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体

実施設計は、大成建設(株)一級建築士事務所

施工業者は、大成・鶴沢建設共同企業体

b 新庁舎の概要

庁舎はL字型のフォルムで、茶色の低層棟と白色の高層棟からなる。低層棟には、来庁者の多い執務室、市民センター、議会エリアを、高層棟には本庁機能を配置。10月には、千葉モノレール市役所前駅から低層棟への直結の連絡通路が完成。現在は市役所駐車場及び市役所前広場を建設中。

高層棟 11階 高さ約53m、低層棟 7階 高さ約32m

敷地面積 約29,000㎡ 建築面積 6,439.69㎡

延床面積 48,888.74㎡ 免震構造 鉄筋コンクリート造

総事業費 295億円 うち工事費 268億円

付属施設にモノレール連絡通路、屋根付身障者駐車場等

駐車台数 482台（来庁者用 302台、公用車用 180台）

c 特徴

「まち・人・緑をつなぐシティホール」、「政令指定都市の拠点にふさわしい機能を備えた庁舎」、この2つをコンセプトとした。

「まち・人・緑をつなぐシティホール」としては、公園、モノレール駅と一体となる沿道型の建物配置とし、道路沿いに「緑側テラス」、玄関前に「まちかど広場」を設け、モノレール駅からの連絡通路、庁舎の表玄関となる低層棟にイベントを開催することができる明るく開放的な空間「市民ヴォイド」を整備するなど、人々が市役所をより身近な存在として感じ、集う施設としてのシティホールを目指した。

「政令指定都市の拠点にふさわしい機能を備えた庁舎」としては、旧庁舎と中央コミュニティセンター、千葉ポートサイドタワーに分散していた機能を集約し、「総合防災拠点機能」、「環境性能」、「ユニバーサルデザイン」を特徴としている。

「総合防災拠点機能」

基礎免震構造を採用し、非常用発電機が72時間連続運転可能な燃料を備蓄するなど災害発生時のバックアップ機能を備え、浸水対策として主要な電気設備機器は2階以上に設置、災害対策本部会議室を始めとした危機管理センターを常設とするなど、非常時の業務継続を可能にした。

「環境性能」

庁舎は、地中熱、太陽光などの自然エネルギーを活用し、LED照明、ソー

ラ・チムニー（温度差自然換気）、雨水利用、高効率熱源機器などにより、建築物省エネルギー性能表示制度の最高ランク５つ星の評価を獲得すると同時に Z E B R e a d y（一次エネルギーの年間消費量が５０％削減されている建物）の認証を取得した。

「ユニバーサルデザイン」

段差のない動線、ピクトサインでの分かりやすいデザイン、音声案内装置やベビー休憩室、盲導犬トイレ、全てのフロアに多機能トイレを配置した。議場には子供連れや車いす利用者に配慮し個室の傍聴席を設けた。

d オフィス整備

執務室機能の検討は、令和元年以降、副市長、局長級で構成される「新庁舎開庁準備検討委員会」を設置し、執務室機能の使い方について整理をするとともに、執務室機能のあり方及びレイアウトプランを取りまとめた。

新庁舎が職員にとってコミュニケーションの活性化（新たな気づき）と新しい働き方の挑戦の場となることを目指して整備した。

オープンフロアとユニバーサルレイアウト（課長以下はデスク島に配置し、デスクの仕様は全職員統一）の導入により、他部署ともコミュニケーションが取りやすくなり、組織変更時のレイアウト変更コストが削減。執務スペースの利用効率が向上し、空調効率も高くなった。また、課単位のデスク島エリアの中で席を選ぶグループアドレスとすることで、不在時は作業スペースとして利用できるように。

またオープンフロアのデメリット、自席での集中や機密性カバーするため、１人で集中できるソロワーク型、２人で作業できるデュオワーク型といったスペースも用意した。

千葉市役所では、市民が直接来庁する区役所とはオフィス機能が異なるとの整理のもと、来庁者と職員の動線を分け、窓口と執務空間を明確に区分した。職員はカード認証により入退室管理を行い、来庁者はカウンターに備え付けてある内線電話で職員を呼び出し、カウンターに職員が出向くという対応をとっている。実際に、高層棟６階の執務フロアを視察したが、カウンター横の椅子に座る市民をお一人見ただけで、首からカードを下げた職員が行き交う姿が多く、低層棟とはずいぶん雰囲気が異なっていた。

e 議場等議会施設

フロア全体にセキュリティが入っている。

議場には、車いすと子供連れ対応の特別傍聴席が２部屋あり、昨年度は９人、今年度は２人の利用があった。

議会図書室には会計年度任用職員の司書が常設

5 所感

(1) 春日部市役所について

人口規模がほぼ同じで、庁舎規模も本庁舎、第二庁舎併せて 21,000 m²程（庁舎延床面積）であるため、今後基本計画の見直しを進めるにあたり、参考になると感じた。

(本市が当初基本計画で示していた本庁舎の概算面積は 23,000 m²で、本年示された資料内での延床面積は 15,000 m²)

一方、市域は本市に比べてコンパクトで、支所は 1 か所、保健所はなく、市内のどこからでも車で 30 分程度で来庁可能という話を聞き、本庁舎の果たす役割が異なることに留意する必要があると感じた。

春日部市庁舎の大きな特徴である「まちのコモンスペース」と銘打った、ひだまりホール、かすかべっ子ルーム、レストラン棟、まちなかひろばは、市民にも好評でにぎわい創出につながっているとのお話だったが、視察時にも、子供連れやビジネスマン等、多くの方が利用していた。本市においては、お城側（本庁舎側）の敷地を「新たな公共空間として整備・利活用」と示していることから、その活用方法がカギを握ると感じた。

災害に強い市役所という点では、本庁舎の 1 階をピロティ駐車場にし、その柱及び梁を活用した免震構造（柱頭免震）としていたが、この免震工法は事業費等の圧縮にもつながる新たな免震構造として注目されており、一般的な免震のように敷地のクリアランスが不要なことも利点であるため、敷地に制約がある本市においても有効な技術であると感じた。

議会機能に関しては、議場や委員会室、会派控室や相談室等、必要な機能が十分かつ適切に備わっていると感じ、大変参考になった。また、市長室が、議会と同じフロアに向かい合う配置で置かれていることも、新鮮に感じた。

質疑応答の中では、本庁舎に窓口を集約した結果、混雑している旨の発言もあった。また、当初想定した職員数よりも、会計年度任用職員を含め、現在、多くの職員が配置されているが、レイアウトの工夫などにより、特段狭隘化の問題は生じていないとのことだった。

(2) 千葉市役所について

人口 100 万人近い政令指定都市であり、通常の市民サービス（窓口業務）は、区役所が主体となるため、本庁舎の規模や果たす役割も全く異なるが、総合防災拠点機能等をはじめ、参考になる部分も多かった。

災害対策本部会議室を始めとする危機管理センターは、平時から常設されるなど、過去の事案を踏まえた機能が整っていた。さすがに本市においてはこうした諸室を普段使われないまま確保することは難しいと考えるが、レイアウトなどを含め、通常の会議室や応接室等を組み合わせることで、災害時において拠点となる機能を確保することは可能であり、必要だと感じた。また、災害対策本部会議室に設置されていた機器は、国・県・保健所等とリアルタイムに情報を共有できるようになっており、今の時代、必須の機能であると感じた。

千葉市視察の一番の目的でもあった執務スペースについては、「コミュニケーションの活性化と新しい働き方の挑戦」を目指して、各エリアのレイアウトを整理しているとのことで、広々としたオープンフロアに配置された「チーム席」と呼ばれるグループアドレス、ユニバーサルレイアウトは、従来の市役所のイメージを一新するものであった。こうしたレイアウトは、スペース効率、コスト削減、そして生産性の向上にもつながるとのことで、本市においても本庁舎のスリム化という点で同様の検討が進

んでおり、その実現性を判断するうえでも参考になった。

千葉市においても質疑応答の中で、職員数の想定等について質問があり、当初よりも会計年度任用職員が増えている旨の回答があった。将来の職員数を正確に見込むことは難しいが、改めて新庁舎建設に当たっては、この辺りを精査する必要があると感じた。

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察 令和6年10月17日(木)・18日(金)

視 察 先	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
及 び	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
視察事項		

1 春日部市市役所新庁舎建設について

実施日時 10月17日(木) 午後1時45分～3時45分

(1) 視察の視点

松本市役所新庁舎建設は、令和元年11月に策定した基本計画の見直しを進めている。見直しの進め方は「市民に身近な市役所づくり」を視点におき、必要な機能、規模等を整理したうえで、配置パターン等を検討することとしている。

この議論は市役所新庁舎建設特別委員会で行うこととなっているため、特別委員会としても現基本計画策定時に行政視察をしているが、見直しの視点を踏まえ改めて最新の状況を把握する必要がある。

(2) 春日部市役所市庁舎の概要

ア 建替え経過

築40数年経過し老朽化が進む庁舎が、東日本大震災で被災し、建物に一部被害を受けた。その後、耐震診断の結果を受け応急補修工事をしたうえで、移転建替を想定した検討を始めた。市民アンケート、市役所本庁舎耐震化有識者会議を経て移転建替を決定し、本庁舎整備審議会に基本構想、基本計画、整備に関することの3つを諮問して進めてきた。

基本計画は、平成29年2月に移転候補地、整備概要、規模、機能の整備方針、配置の考え方、事業方式、スケジュールを盛り込んで策定した。

建設は基本設計（プロポーザルにより株式会社久米設計）を平成29年12月～平成31年3月、実施設計を令和元年6月から令和3年2月、工期は令和3年8月～令和5年9月

イ 新庁舎の概要

(ア) 移転建設場所 市民病院跡地 11,929.55 m²

(イ) 規模等

本庁舎（新築）：地上6階、17,357.05 m²（14,771.44 m²のピロティ除く）
免震構造

第二庁舎（既存病院建物を改修）：地下1階、地上6階、6,702.37 m²
耐震構造

合計床面積 21,473.81 m²（ピロティを除く）

基本計画約 15,000～21,000 m²

ウ 新庁舎の特徴

(ア) 人にやさしい庁舎

- ・ 7か所に分散していた窓口を集約→職員から時間の無駄が排除できたと好評
- ・ 来庁者がくつろげるスペース配置（ロビー、キッズスペース、子ども家庭センター）

(イ) 災害に強く環境・経済性に配慮した庁舎

- ・ 免震構造と非常用電源設備（50%電力72時間）
- ・ 外壁にメンテナンスフリー建材採用（チタン亜鉛合板）。埼玉県建築物環境配慮制度（CASBEE埼玉県）最高位Sランク取得。
- ・ 高断熱、LED照明、雨水は中水としてトイレに利用

(ウ) まちへの配慮

- ・ 別棟でコミュニティホール（だれでも利用可能なホールと子供連れ家族が使えるスペース）、レストラン（公募による民間事業者が運営）を配置
- ・ まちなか広場（マルシェ、フリマ、イベント発表会などに利用可能）を新築建物3棟の前に配置。毎週末イベントで活用されている。

(エ) その他

- ・ 議会関係諸室と市長室、政策関係部所を同一フロアに配置している。議会関係諸室のセキュリティは、カード式電子キー方式となっている。
- ・ 災害時には災害対策本部室となる大会議室には、テレビ及びモニター、電動スクリーン及びプロジェクターを設置している。
- ・ 1階はピロティ形式となっている。建築基準法上の床面積に参入しているが、駐車スペースとして利用し市庁舎としての庁舎面積算定対象床面積とは区分している。
- ・ 建設費を市民からクラウドファンディングで集めた。全629件中579件が市民から。寄付者の名前がロビーに銘板として掲載されている。（名前のみ又は居住地名併記）
- ・ 事業方式は基本計画ではDB（デザインビルド）であったが、東京オリンピックによる価格高騰があり、DBによる経費節減効果が見込まれないと判断し従来方式（分離発注）で実施した。設計は基本設計の株式会社久米設計。施工は大林組・東武建設・正和工業 特定建設工事共同企業体

(3) 視察から見た課題

ア 建設規模の設定

総務省起債対象事業費算定基準及び国土交通省新営一般庁舎面積算定基準それぞれを用いた比較検討を行っているが、基にする職員数は基本計画策定時点の正規職員（735人）で算定し21,000㎡としている。将来推計は行っていない。

建設後の収容正規職員数は800人（計画時に対し水道局を集約）、会計年度任

用職員を含めると約 1,000 人が執務している。

イ 事業方式

ＤＢから従来方式に変更しているが、事業費削減効果が見込めないと判断した理由に踏み込めなかった。

(4) 所感

人口規模が同じ市であるが、中核市の有無による保健所を併設していないことを考慮する必要がある。松本市では現在の理事者側の説明は、保健所を分離する考えのため、現地での規模算定には影響しない。松本市の現基本計画では総務省起債基準（平成２３年に廃止）を基に算定し、職員数 1,000 人で 22,000 ㎡（新設機能を加えると 24,000 ㎡）としている。春日部市の収容実職員数が 1,000 人であることを比較すると、現基本計画の規模は相当すると判断できる。見直しのスリム化の視点について松本市理事者側の明確な考え方を聞く必要がある。また、算定基準を廃止されている総務省基準と国土交通省基準の比較検討も求める必要がある。

別棟にした２棟の施設は、なるほどと思える内容であり、併設している広場の位置付けを含め、松本市における現本庁舎敷地の使い方と合わせて捉えることができると受け止めた。

環境配慮に関するメンテナンスフリーの外壁は参考にできる。松本城を前にした建物デザインとの関係を含め、基本設計において提案を望む点である。

事業費へのクラウドファンディング手法の採用は、特徴的な建設内容に限って活用できるのではないかと思う。基本計画見直しの新たな視点に加えても良いと考える。

2 千葉市市役所新庁舎建設について

実施日時 １０月１８日（金） 午前９時３０分～１１時３０分

(1) 視察の視点

松本市役所新庁舎建設は、令和元年１１月に策定した基本計画の見直しを進めている。見直しの進め方は「市民に身近な市役所づくり」を視点におき、必要な機能、規模等を整理したうえで、配置パターン等を検討することとしている。

この議論は市役所新庁舎建設特別委員会で行うこととなっているため、特別委員会としても現基本計画策定時に行政視察をしているが、見直しの視点を踏まえ改めて最新の状況を把握する必要がある。

(2) 千葉市役所市庁舎の概要

ア 建替え経過

庁舎整備計画は平成２７年６月に先に策定した基本構想を含め、整備の方向性、機能方針、規模、モデルプラン、事業費算出、事業方式及びスケジュールの内容で策定した。

平成23年、東日本大震災にて本庁舎の職員が一時避難を要すなど、防災拠点機能及び耐震性不足が明らかになり、人口急増に伴う庁舎の分散化・狭あい化を含め老朽化によるバリアフリー、環境性能不足が明らかになった。これらの課題整理のため専門家による整備方策を検討・検証を行い、平成26年度より本格的な検討に取り組んだ。一万人市民アンケート結果や本庁舎検討委員会、市議会特別委員会での調査審議を経て、平成26年11月に基本構想を策定した。

建設は基本設計（プロポーザルにより久米設計・隈研吾都市設計共同企業体）を平成29年12月～平成31年3月、実施設計を含む工期は令和元年3月～令和7年4月

イ 新庁舎の概要

(ア) 建設場所 現本庁舎敷地

(イ) 規模等

高層棟 地上11階、低層棟 地上7階

建築面積 6,439.69 m² 延べ床面積 48,888.74 m² 免震構造

他付属建物合計（建築面積 8,347 m² 延べ床面積 51,204 m²）

基本計画の延べ床面積 約 50,000 m²（国道交通省基準）

ウ 新庁舎の特徴

(ア) 防災拠点機能

3階に常設の危機管理センターを配置。諸室は危機管理部執務室の他、オペレーションルーム、関係機関調整室、災害対策本部会議室を単独に配置。通常は空室とし、非常時直ちに利用可能としている。

浸水対策（高潮4m）として主要な機能である熱源、雑用水、オイルタンク、非常用発電機（72H）を2階に配置している。

(イ) オフィス機能

- ・ 高層棟に来庁の少ない部署を集約し、執務機能重視の考えを導入（基本設計時の位置付けもあるが詳細は後述）
- ・ 机の配置は統一性を持たせたユニバーサルレイアウトとし、レイアウト変更コストを削減。課長、補佐席もデスク島の中に配置し、執務机の仕様は全職員が同一で、島の長さも同一としている。フリーアドレスではなく、グループアドレスを導入し、座席は一人一席設けているが、部署別の配置を決め、その中で個人席は自由に利用可能としている。
- ・ ペーパーレスを図るため情報はクラウド上に保存し、個人別のロッカーを備え、机に書類等は置かないため、衛生的かつ気持ち良い空間となっている。電話はコードレスPHSで、内線電話としても使っている。
- ・ 執務室に隣接したマグネットスペースに複合機・文具等を配置し、共有化し消耗品を削減するとともに、職員交流も促進している。

- ・ 執務スペースとは別に、機密性を図る必要がある場合等に利用できる「窓側エリア」と呼ぶ場所を設け、A B W（適業適所な働き）を促す考えを取り入れている。
- ・ 各種打ち合わせ・作業スペースを執務スペースに隣接して設け、一部市民利用も可能としている。
- ・ 職員が執務から離れリフレッシュできる場所を専用に設け、自販機等を配置し市民も利用可能としている。

(ウ) その他

- ・ 高層棟の執務室は一般市民が入室できないセキュリティが採られている。議会関係も他とは別のセキュリティ対策を取っている。
- ・ 低層棟屋上及び高層棟7階横に屋上庭園を設け、職員や市民に開放している。
- ・ 市庁舎へのアクセスは、J R最寄駅から徒歩、都市モノレール、バス、自家用車がある。都市モノレール市役所前駅から市役所2階に直接接続しており非常に便利である。
- ・ 基本設計を担当した久米設計の提案では、「政令市である市庁舎は一般市庁舎と比べ市民窓口業務の割合が少ない反面、行政組織の中核として高い機能、安全性、防犯性が求められる基本的な機能を整理している。そのうえで、一般市民窓口業務が少ない執務エリアを機能重視の堅牢な高層棟に集約し、その他の市民交流・情報発信をおこなえる場として街路に面した低層棟に広場やカフェ・イベントスペースを配置した。」としている。

(3) 視察から見た課題

ア 建設規模の設定

執務室は、総務省起債対象事業費算定基準及び国土交通省新営一般庁舎面積算定基準それぞれを用いた比較検討を行っているが、基本計画では国土交通省基準を採用し、基本設計においてユニバーサルレイアウトを採用することで面積を減じ、更に実施設計段階で面積を減じた結果、国土交通省基準8.3㎡/人を6.3㎡/人とした。基にする職員数は基本計画策定時点の職員数で算定している。

特徴である災害対策本部機能の独立化は、庁舎のあり方のプライオリティに関わる。

オフィス機能重視は事務所機能として優位性はあるが、市民サービスの面からは劣る。

基本設計の発注方式が質疑において明らかにされなかったが、有名建築家（隈研吾）が入ることとの関係性は明確にする必要がある。

イ 事業方式

基本計画と同じデザインビルド方式を採用。一般競争入札により落札者を決定

(4) 所感

松本市の基本計画見直しにおいては、人口規模が全く異なる政令市であることを踏まえる必要がある。課題で整理した災害対策本部機能の常設化は理想的であるが、現実的には事業費を考慮すれば困難と判断する。

執務室機能の考え方は大いに参考にできるが、理事者側が発言している市民窓口を1階に集約する場合に採用できるものである。市民の来庁頻度と窓口対応の考え方は、政令市と中核市では全く異なることを整理する必要がある。特に、本市における地域づくりセンター機能の充実化と、政令市における区役所の位置付けは異なる。

市役所は何のためにあるかを改めて現基本計画から読み取り、見直しとの関係を議論していく必要を感じた。

令和6年10月30日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会副委員長 上條 一正

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 春日部市役所新庁舎建設について

「人に優しい庁舎」、「災害に強い庁舎」、「環境・経済性に配慮した庁舎」の3本柱で建設。特に、市民にとって使いやすく、訪れたいような配慮を徹底的に行っていることが見受けられた。

- (1) 市民の手続き関連で訪れる機会が多い部署機能について、これまで7つの施設に分散していたところを新庁舎に集約。この部分については、これまでに本市で提示されていた方向性と逆の考え方で建設したようだ。市民の利便性、わかりやすさを考えた時に、一つの庁舎に集約されていることは、必要なことだと感じた。また、「まちのリビング」といった形でゆったりと来庁者がくつろげる作りをしていた。

- (2) 手続きの関連にとどまらず、市民が活用しやすい施設として、イベントを行う開かれた屋外スペースや、カフェ、子供連れの家族が役所以外での用事でも気軽に立ち寄り、土日もオープンしている「かすかべっ子ルーム」や、近くに設置されていた「ひだまりホール」など、入口付近にあって、市民に開かれ使いやすい印象でとてもよかった。

議場についても、傍聴者と議会が一体化する作りをしていた点は、市政を身近に感じられると思った。

- (3) 掲示案内板の工夫や、庁舎建設の折のクラウドファンディング寄付者の掲示なども親しみがあってよかった。

2 千葉市役所新庁舎建設について

執務室の在り方、防災対策を中心に視察。他部署とコミュニケーションをしやすいように細部にわたり意識した動線や、部署間をしやすい環境に徹底的にこだわった設計をされており、「縦割り行政」の課題の解決や、過密労働を防ぐよう、職員の労働環境を充実させることで市政の充実を図っていることが見受けられた。

- (1) 執務室については、民間企業のオフィスにあるようなリフレッシュエリアや、小規模から中規模まで充実した打ち合わせスペースがあり、より、民間に近づいた執務が行われるようなレイアウト、また、職員同士のコミュニケーションを促す工夫がされていて、参考になると感じた。

- (2) 敷地面積も広く、政令市であるゆえ、自治体としての役割を果たすため防災対策の危機管理センターの充実がなされていたことが印象に残った。

本市においても、学ぶべき点は多くあり、他地域と連携し災害時への備えを徹底することを意識した庁舎建設が望まれる。

- (3) 有名建築家の設計とデザインにより、緑化やデッキなどを施した周辺の雰囲気について印象はよかったが、庁舎内部の雰囲気はちょっと味気ない印象があった。

議場についても、傍聴者から議員が見えない状況だったり、コスト面もあると思うが温かみに欠けるので、この点においては庁舎建設の折に工夫が必要だと感じた。

3 所感

市民に開かれた庁舎を徹底的に意識した春日部市役所、オフィス機能の最適化、防災拠点としての庁舎機能を重点においた千葉市役所、2つの事例を視察し、松本市においてもこの3つの観点を軸に議論をしていく必要があると改めて感じた。

働きやすさや縦割り行政解消も含めたオフィスの在り方については、幹部だけでなく若手も含めた職員から、これまでの庁舎の課題や、今後どうしていくのが理想かなど、考えを丁寧に聴きながら、働きやすさとサービス提供といった両面をカバーするにはどうあるべきか、職員自らの意欲高揚に繋がるような、計画策定を意識する取り組みも必要なのではと改めて感じた。

令和6年11月8日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 中山 英子

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
及び	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
視察事項		

この度の特別委員会の視察では、近年、市役所庁舎の建替えを実現した先行自治体として、埼玉県春日部市・千葉県千葉市（訪問順）を訪ねました。両庁舎とも、本市の市役所新庁舎建設に向けて、学びたい要素が数多くある建築、並びに、建設プロセスでした。そのなかでも両市が共通して大切にしていた視点として、「職員の働きやすさから行政機能も高まる庁舎」、「これからの時代に求められる建築としての庁舎」、「市民が集う『シティホール』としての庁舎」、以上3点に整理しながら、以下報告します。

1 職員の働きやすさから行政機能も高まる庁舎

(1) 分散していた施設を集約して生まれる職員間のコミュニケーション

千葉市では、3つの施設に分散していた執務室を新庁舎に集約したうえで、パーティションや棚などで視線を遮らない「オープンフロア」、各課のデスク配置を均一化する「ユニバーサルレイアウト」、課単位のデスク島エリア内で自由に座席を選ぶことができる「グループアドレス」などを導入し、レイアウトやシステムを工夫することで、職員間のコミュニケーションの活性化を図っていました。「コクヨ」が事業に参画していることもあり、リアルなオフィスを、そこで働く当人たちにとって、いかに快適で生産性の高い環境にデザインするか、という民間企業の視点と工夫が随所に盛り込まれている、高機能な庁舎でした。

春日部市では、7か所に分散していた行政施設が新庁舎に集約されたことで、市民の利便性が高まっただけでなく、職員の会議ごとの移動時間も節約され、市民・職員の双方から好評であると伺いました。コロナ禍を経てオンライン会議が普及し、ある程度一般化したとはいえ、対面でのコミュニケーションが復活したとき、やはり対面に勝るものはない、と感じた経験は、少なからず共有できるのではないのでしょうか。職員同士が日頃から、必要があれば部局も跨いで、クイックに訪ね合い、集い、コミュニケーションを取ることが叶う環境は、やはり欠かせないと考えます。

なお、春日部市は人口規模が本市とほぼ同程度である一方、本市に比べて面積が小さく、支所もひとつしかないという特色がある点には、留意する必要があるとも考えます。本市は、自然環境や生活環境、歴史的背景など、地域特性が異なるさまざまな地区の集合体で、広範な市域を有するため、それぞれの地区の地域特性を踏まえた日頃の細やかな住民サービスについては、引き続き、「地域づくりセンター

（支所・出張所）」を基軸に、地域で担うことが適当であると考えます。また、広範な市域を有するからこそ、物理的に隔たりがある地区間、あるいは全地区で会合を開く際などには、オンラインを活用することが、極めて有効であるとも考えます。

広い市域を抱える本市においては、きめ細やかな住民サービスを各地区の「地域づくりセンター」が中心となって担いつつ、それぞれの地区で得た知見をオンラインのネットワークでシェアし、各地区にフィードバックし、次の住民サービスに活かすこと、並びに、できる限り多くの部局の職員がひとつの庁舎内に居て、必要に応じて直ちに訪ね合い、対面のコミュニケーションが取れる職場環境を用意することで、各地区の現場で展開される住民サービスを迅速かつ的確にバックアップする体制を整えること、この双方をどのようなバランスで実現させていくかについて議論を深めることが、重要であると考えます。

【参考】※行政視察資料より抜粋

松本市：人口 236,447 人（108,398 世帯）面積 978.47 km² 人口密度 241.6 人/km²

春日部市：人口 231,726 人（110,693 世帯）面積 66.00 km² 人口密度 3,511.0 人/km²

千葉市：人口 977,016 人（480,237 世帯）面積 271.76 km² 人口密度 3,595.1 人/km²

(2) 職員の就業環境および福利厚生的重要性

春日部市では、来庁する市民の動線から外れる第二庁舎5階に、職員が休憩したり、食事をとったり、自由にミーティングを開いたりすることのできる、フリースペース「ミーティングラボ」を設け、給湯室に電子レンジや出前の受渡し棚などを加え機能を充実させた「パントリー」を整備するなどして、職員の就業環境の向上に努めていました。

千葉市でも、来庁する市民の動線から外れる場所に「リフレッシュエリア」を設けるなど、職員の心理的安全性を確保する環境整備の工夫が見受けられました。

いずれの庁舎でも、その場で働く職員の「居心地のよさ」に心配りが為されていて、本市でも大いに参考にすべき取り組みであると感じると同時に、職員の福利厚生の重要性を痛感しました。

2 これからの時代に求められる建築としての庁舎

(1) 環境に配慮した庁舎

両庁舎の現地視察を通じて、グリーン存在は、環境配慮の一環として、また、リフレッシュできる職場環境の一環として、やはり欠かせない要素であるという確信を深めました。

春日部市役所は、屋外に緑を備えた憩える空間が多い印象を受けました。雨水を貯蔵し、トイレの洗浄水や植栽の散水栓に活用している点は、災害時対策の観点からも必須であり、本市もぜひ採用すべきと考えます。また、建物の断熱性を高めることは、環境負荷の軽減に加え、庁舎で働く職員、庁舎を利用する市民、双方の快適さを高めることにも繋がるため、ぜひ実施すべきと考えます。

千葉市役所も、庁舎周囲の街路樹、外壁周囲のプランター、屋上庭園など、随所にグリーンの要素が組み込まれていた点が印象的でした。また、太陽光発電設備、地中熱利用設備、雨水利用設備など、複数の設備を導入して、再生可能エネルギーの利用を推進している点、エネルギー源の異なる高効率な熱源設備を複数導入して、環境負荷を低減している点は、注目に値します。そして、非常用発電機の整備と合わせ、これらの設備を導入することによって、インフラ断絶時の助長性を高め、行政の業務継続性にも寄与している点は、後述する、災害時にも強い庁舎を実現する上でも効果的である、と考えます。

(2) 災害に強い庁舎

千葉市役所は、臨海部に立地するため、高潮の予測水位5mを超える高さが確保されている2階に非常用発電機を備え、その真上に位置する3階のスペースに、災害時、直ちに使用できる「災害対策本部会議室」を含む、「危機管理センター」が整備されていました。災害時を想定した庁舎を整備するためには、必要な設備に必要なスペースを割く必要があることを実感し、本市においても、庁舎の「省スペース・コンパクト化」のベクトルとのバランスを取ることが重要であると感じました。

(3) 公共交通でアクセスしやすい庁舎

千葉市役所における、モノレール駅直結の連絡通路は、実際に利用してみたことで、実に至便であることを実感しました。春日部市役所でも、ロータリー内にバスの停留所を確認しました。

公共交通による来庁を容易にするための交通ネットワーク整備は、人口減少社会における、交通弱者に対する支援として、欠かせない施策であると考えます。仮に、本市が現時点で掲げている「市民に身近な市役所」を具現化したひとつの姿として、上述したように、日頃のきめ細やかな住民サービスを各地区の「地域づくりセンター」が中心となって担ったとしても、あらゆる市民が市役所本庁舎を訪ねる機会が皆無になることは、当座、想定しづらいため、広範な市域を有する本市においては、郊外部や山間部からの来庁に備え、とりわけ創意工夫が求められる課題です。

また、公共交通による来庁を促すことは、マイカーでの来庁を相対的に減らすことにつながり、環境負荷の軽減や、駐車場スペースの節減にも、寄与するものと考えます。

3 市民が集う「シティホール」としての庁舎

千葉市では、新庁舎の基本設計を策定する際、コンセプトのひとつに「まち・人・緑をつなぐシティホール」を掲げ、「市民に開かれたシティホール」を実現すべく、多目的ホール「市民ヴォイド」を設置しています。この「市民ヴォイド」では、千葉市の啓発事業や、同市が主催・共催・後援する催事などを、毎月不定期に開催している、とのことで、現地視察の当日も、平日にもかかわらず、市民によるマルシェイベントが催されており、日常的に市民が活用している様子を窺い知ることができました。昨年度の主な利用実績としては、千葉県警音楽隊のミニコンサート、フェアトレードマーケット、市民団体の発表会、パブリックビューイング、千葉県誕生 150 周年のパレードに合わせたイベントなどがあり、多くの市民が来庁するきっかけを創出している模様です。同市としても、旧庁舎と異なり、本庁舎で実施できるイベントなどが増え、市民が市役所に用務がない場合でも集まる機会となっているため、新庁舎の設計に際して掲げた「まち・人・緑をつなぐシティホール」の姿を実現できている手応えを感じている、とのことでした。

春日部市は、新庁舎建設の基本方針のひとつに掲げた「春日部市にふさわしい庁舎」に基づき、「まちのコモンスペース」を設置し、「にぎわいを創出する役割も担う市役所」を目指しています。「まちのコモンスペース」のひとつ、「ひだまりホール」は、最大 150 名を収容することができ、飲食も可能な空間なので、講演会や講習会などで、市民が頻繁に利用しているとのことでした。もうひとつの「まちのコモンスペース」で、屋外にある「まちなかひろば」も、毎月 1 回の頻度で、キッチンカーやマルシェなどのイベントが開催されており、今夏の納涼祭では 1,000 人を超える市民が来場した実績もあるそうです。同市としても、「まちのコモンスペース」を週末も開放することによって、以前は週末ごとに閑散としていた市役所が、市民が集い、にぎわう場に変わったという実感があり、新庁舎が「にぎわいを創出する役割」も担っている、という手応えがある、とのことでした。

春日部市役所は、その新庁舎建設にあたり、クラウドファンディングを実施していますが、「みんなが集い、交流する、にぎわいのある市役所をつくりたい！」と題された、そのプロジェクトページ（ウェブサイト）を確認すると、単に建設費の資金調達手段としてクラウドファンディングを実施したわけではなく、市民も主体的に関わることができる「まちのコモンスペース」を市役所敷地内に設けるために実施したという意図を、明確に読み取ることができます。同じページに春日部市長から寄せられたメッセージにも、「まちのコモンスペース」設置について触れながら、「（市民の）皆さまとともに親しまれる庁舎を作り上げていきたい」と記されています。こうした市側の姿勢が市民にも伝わり、新庁舎建設が自分たち市民にも関わりのある「自分たちごと」として捉えられたことが、目標金額の 3,000 万円を大幅に上回る、約 5,590 万円（達成率 186.3%）の支援獲得に繋がったものと推察します。

本市においても、両市の姿勢と具体的な取組みに学び、市役所を市民にも関わる余白のある施設、すなわち「私たちの市役所（OUR CITY HALL）」として市民が認識できるように、そしてまた、新庁舎開庁後の「コモンスペース」利用を予め促すことができるように、明確なコンセプトとメッセージを打ち出し、それに相応しい具体的な「コモンスペース」の空間デザインを施すことが、極めて重要であると感じました。

以上、「職員の働きやすさから行政機能も高まる庁舎」、「これからの時代に求められる建築としての庁舎」、「市民が集う『シティホール』としての庁舎」の3つの視点から、市役所新庁舎建設に関する委員会視察での学びについて、報告しました。

なお、上で触れなかった点として、ひとつ加えるならば、春日部市・千葉市、両市とも、新庁舎建設にあたり、旧庁舎の近隣あるいは敷地内に、新庁舎建設用地を確保し、庁舎移転に係る費用や時間などのコストを圧縮できていた点は、本市においても参考にすべき要素として、見逃すことができません。

今回の委員会視察を通じて両市から得た学びを活かしながら、今後、必要な熟議を重ねるなかで、本市の市役所新庁舎についても、職員のポテンシャルが適切に引き出され、地球環境や災害時対応、交通アクセスに対しても配慮がなされ、何より市民にとって関わる余白のある、「私たちの市役所（OUR CITY HALL）」としての明確なビジョンが示されていくことに期待を寄せて、この報告を結びます。

令和6年11月8日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 菊地 徹

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
及び	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
視察事項		

1 はじめに

令和2年2月に開催の議員協議会で新庁舎建設基本計画が策定されましたが、建設地や規模、求められる具体的な機能と内容が二転三転し今なお見直しが進められている事態は、現在の庁舎老朽化及び狭隘化を見ると危機管理も含め誠に残念な状況にあると言わざるを得ません。

現地での建替えには計画が順調に推移しても今後10年余の時間を要する訳であり、不透明な社会情勢や人口減少、想定される災害等を想うと早期の計画取りまとめと推進、実行が求められるのは言うまでもないことと思います。

2 埼玉県春日部市庁舎について

視察した埼玉県春日部市は、人口において本市とほぼ同じ23万人ですが、関東平野に位置したコンパクトな行政区となっています。本年1月に開庁した新市庁舎は、「人に優しく 災害に強い 市民に親しまれる庁舎」をコンセプトに集約型で建設されており、市民サービスの一層の充実が期待できるものと感じました。

耐震構造であった旧市民病院の一部を第二庁舎としてリノベーションし有効に活用をしており、建設費の圧縮と工期も約2年短期することができ、市民サービスの低下はなかったそうです。

◎災害に強い庁舎（免振・耐震・非常用発電）

◎環境・経済に配慮した庁舎（メンテナンスフリー外壁・ユニバーサルデザイン）

◎街に賑わいを創り出す庁舎（コミュニティホール・レストラン・まちなかひろば）

春日部市は本市の様に歴史的な建造物や自然に抱かれた観光地はありませんが、広く人々に愛されている漫画「クレヨンしんちゃん」、地下神殿とも呼ばれる「首都圏外郭放水路」、藤の花の名所として全国的に有名であり、首都圏のベッドタウンとして今後の持続的な発展を強く感じました。

3 千葉県千葉市庁舎について

人口100万人に迫る政令都市の千葉市は、東日本大震災の教訓から災害に強い新市庁舎建設が喫緊の課題でありました。

市民生活の安全安心を確保し、地震・風水害等のあらゆる危機事案に対処するため、庁舎全体の免振をはじめ、情報収集や情報発信の拠点としての設備、72時間稼働

可能な非常用発電機など、充実した危機管理センターを総合防災拠点として重点的に整備していました。

また職員間のコミュニケーションの活性化を図り、より高い市民サービス提供のために、執務室は業務のペーパーレス化・スペースの効率化・コスト削減・生産性向上といった新しい働き方を意識したものになっていました。壁や背の高い什器で視線を遮らないオープンフロアを導入し、リフレッシュエリアやスタンディングコーナーと言った、今までの役所ではあまり見かけなかったゆとりのある「新しい働く場」が、計画的に配置されていました。

さらに海側のみなと公園と、市街地や県庁を結ぶモノレール中間駅が、新庁舎と直結しており、利用する市民にとって交通の便が大変良く、屋上庭園や壁面の緑化、造園中のさくら広場、イベントスペースなど、人が集う仕掛けが随所に見られました。

市議会の議場も傍聴しやすくより開かれた議会を具現化しており、旧来の役所のイメージから離れた新しい「市民のための場」として、今回の大きな投資が活かされていくと思いました。

4 おわりに

春日部市、千葉市の新市庁舎を見学させていただき、本市の目指す庁舎も危機管理と市民サービスに重点を置いた、華美ではないものの、市民が誇れるような施設でなければならないと強く感じました。

現在地での建替えが原則ですが、昭和 33 年建設の本庁舎をはじめ、市民の窓口がある東庁舎においても築後半世紀以上が経過しています。老朽化も目立ち、狭隘な執務室やトイレなど、大地震等が声高に叫ばれる中、一市民として危機管理の観点からも一刻も早く着地点を見出し、建設の前進を強く願うものです。

本市は面積が広大で、地域づくりセンターが 35 か所もあり、集約型の庁舎は難しいと思いますが、バックオフィス機能の充実は当然としても、本庁舎敷地部分も含め、国宝松本城と北アルプスに溶け込むような「市民に身近な市役所」として相応しい斬新な建物であって欲しいと思います。また、現在地では物理的に中途半端な庁舎が想定されるのであれば、民間の力を活用しながら新天地での複合的な施設の構想も検討すべきものと感じています。

令和 6 年 10 月 21 日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 太田 正徳

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
1 本市における経過 本市は令和2年度に「市役所新庁舎基本計画」を策定したものの、市長より「建設見直し」についての表明があり、「分庁舎」などの提案に対して議会と協議を進めるも、令和5年度まで、議会との合意が得られず膠着した状態だった。 令和6年に「分庁舎」ではなく、「市民に身近な市役所」として、スリム化した市役所のありかたを含めた「基本計画の見直し」が提示され、議会として協議、了承とした。 2 視察の目的 この1、2年でOPENした新市役所の中で、特に「集約」をしたという観点から人口規模の近い「春日部市」、総合防災拠点としての機能を強化した「千葉市」を視察先に選定 3 視察内容 (1) 春日部市 ア 市の概要 人口は23万人。埼玉県の東部に位置し、東武伊勢崎線・野田線の2路線が交差し、ベッドタウンとして発展。アニメ「クレヨンしんちゃん」の街としても知られる。 イ 新庁舎建設にあたっての課題 昭和45年に建設された庁舎は老朽化が激しく旧耐震基準であったため、防災的観点からも建て替えの必要性に迫られていた。 窓口が7か所に分散していたため、市民の利便性が悪かった。また、職員の業務で移動時間を要した。 ウ 新庁舎について (ア) 基本理念 「人に優しく 災害に強い市民に親しまれる市役所」 ①人に優しい庁舎 ・7か所に分かれていた窓口を1か所に集約することで、利用しやすく、わかりやすい。職員も議会や会議の際の移動がなくなり、時間の無駄がなくなった。		

- ・ユニバーサルデザインを採用。レストランなど段差をなくした。バリアフリーのトイレ、車いす駐車場ほか優先駐車スペース設置
- ・大きく見やすいサインや、海外の方にもわかりやすいよう、数字表記はアルファベットに。
- ・キッズスペースや子ども家庭センターなど、子育て支援環境の整備
- ・ガラスで仕切られた親子傍聴席や車いす傍聴スペースを議場に設置

②災害に強い庁舎

- ・災害時に大会議室が災害対策本部に。（情報収集のためのテレビ、大型ディスプレイを2台設置）
- ・免震構造
- ・2階以上を執務室に、主要設備は3階以上
- ・非常時発電機を設置。50%の電力が3日間利用可能

③環境・経済性に配慮した庁舎

- ・外壁にチタン亜鉛合金板を使用したことにより、80年以上の耐久性を確保し、塗替えによる足場設置や、接合部分の補修が不要に。
- ・埼玉県建築物環境配慮制度で最高位Sランク、建築物省エネルギー性能表示制度で最高ランク5つ星を獲得。高効率の空調システムを導入したことで、夏は涼しく、冬は暖かく。
- ・LED照明により、執務室が明るく
- ・雨水をトイレの洗浄に使用

④春日部にふさわしい庁舎（まちのコモンスペース）

庁舎がにぎわいを創出

- ・「ひだまりホール」
150人収容が可能。ダンスや音楽の発表会、絵画展示などイベントや、講演などで利用。飲酒、飲食が可能で土日も含め多くの利用がある。
- ・「まちなかひろば」
ステージが設置されて（階段が観客席スペースに）、月に1回マルシェやキッチンカーなど屋外イベントに活用。8月の納涼祭には千人以上が参加
- ・「かすかべっ子ルーム」
土日も開いており、子供連れの家族が自由に遊べるスペースで大好評（職員なし。無料）
- ・「カフェブルーミーズ」（民間事業者）
朝8時から夜9時まで、土日も営業。夜はアルコールの提供も。イベント時は窓から観覧も可能

⑤総建築費

113億円（当初予定より2.6億円上昇）

クライドファンディング活用（寄付者のプレートを入口に設置）

エ 所感

庁舎が集約されたことによる利便性や、機能性が如実に感じられる庁舎でした。特に強く印象を受けたのは、「庁舎そのものが賑わいを創出される場所」であるということです。庁舎に集めれば、自ずとそこまでの道のりである中心市街地も人の流動が起こりうると感じました。

「市民の皆さんに使って欲しい」というメッセージこそ「私たちは市民の皆さんにどこまで寄り添う行政」というメッセージに感じました。

また（本市での横展開は難しいものがありますが）、「クレヨンしんちゃん」のイラストやオブジェがそこかしこにあり、親しみやすい温かなイメージ作りの一役をになっているのも好感が持てました。これが叶う背景に、とてもコンパクト（面積）な街であることは重要な要素であるとも感じました。

(2) 千葉市

ア 市の概要

人口は97万人。千葉県のほぼ中央に位置し、東京湾に面する県庁所在地。1992年に政令指定都市となる。合併や埋め立て事業により一大工業地帯に。

イ 新庁舎建設にあたっての課題

昭和45年に建設された庁舎は老朽化が激しく3か所に分散し、執務室の狭隘化も問題だった。また、東日本大震災の機に、耐震性の不足や、災害時の業務継続性の不足が課題となった。

ウ 新庁舎について

(ア) 「緑をつなぐシティーホール」

みなと公園やプロムナードの街路樹に溶け込む景観（デッキ）、壁面緑化、屋上緑化。隈研吾氏のデザインによる。

(イ) 「《まち》と《みなと》をつなぐシティーホール」

市民ヴォイドで、ミニコンサートやフェアトレードマーケットなどのイベント開催により市役所に用事がなくとも市民が集える空間に。

縁側テラス、屋上庭園、さくら広場にベンチを設置し、憩いの場を提供
来庁者が利用しやすいフロア構成（駅からの直結の屋根付きデッキ）

議場についても、ガラス張りの親子傍聴席、車椅子用のスペースを確保

(ウ) 総合防災拠点機能

被災直後、初動時の対応が重要と考え、災害対策本部会議室を常設。災害対策本部会議室、関係機関調整室、オペレーションルームからなる。これにより、被災直後も災害対応等の業務が継続可能に。

①インフラ遮断後も非常用発電機が72時間連続稼働可能

②海が近いことから、主要な設備は2階以上に設置し浸水対策

③免振構造により、躯体の被害を軽減し、家具の転倒防止

(エ) 環境機能

Z E B R e a d y 認証取得

太陽光発電、地中熱利用設備、雨水利用設備など導入

高効率な複数の熱源設備導入（インフラ遮断時の業務継続性にも寄与）

空調の効きが良くなる。

(オ) ユニバーサルデザイン

年齢、障がいの有無、性別、国籍に関わらず、安心して利用できる庁舎（障がい者団体やLGBT団体からの意見を参考に）

①わかりやすいサイン（ピクトサインなど）

②誘導設備の設置（誘導ブロック・音声案内装置、フラッシュライトなど）

③車いす、オスメイト対応やフィッティングボード、ベビーチェアを配置
多様な来庁者に配慮したトイレ

④1階、2階にベビー休憩室

⑤庁舎出入口の屋外導線に段差をなくし、緩やかな勾配に

⑥建物出入口、有効開口幅 150 cm以上、内部廊下幅 180 cm以上

(カ) コミュニケーションの活性化と新しい働き方に挑戦したオフィス

チーム席：壁や背の高い什器で視線を遮らないオープンフロア（他部署の活動がわかる）。デスクの配置を統一するユニバーサルレイアウト（スペース効率UP・一体感・歩きやすい通路）。課単位のエリアであれば自由に座席が選べるグループアドレス導入。職員の健康にやさしいウェルネスオフィス（大型デスクで足元の空間拡大）。パーソナルロッカー導入によりクリアデスクに（快適かつ安全でペーパーレス）。

マグネットスペース：アクセスしやすい場所に複合機や文具を設置し、そこを利用する人同士のコミュニケーションを創出。文具のシェアにより保有する消耗品を削減

窓際エリア：「集中」や「機密性」を確保するため什器の組み換えが可能なスペースに（グループワーク型、ソロワーク型、デュオワーク型など）

各種打ち合わせ・作業スペース：ファミレススペース（ソファでカジュアルな情報交換や打ち合わせスペース。8～10人向き）。スタンディングコーナー（ハイテーブルやローキャビネットを配置し、短時間の立ミーティング向き）。オープンエリア（市民や業者などとの打ち合わせ用）

リフレッシュエリア：執務室から直接移動できるスペース。気分転換に。

エ 所感

3か所に分かれていた庁舎機能を一か所にまとめることで、巨大になり、市民や職員間の距離が離れるかと思いきや、緑を多用し、一目で親近感のある憩いの

場とすることで、市民の集う場所となっていることに共感を覚えました。また、開放的でフリースペースが多く、自由度の高いオフィスには、新しい働き方に向けての挑戦する意欲を強く感じました。こういった環境に慣れるまでは大変かもしれませんが、間違いなくコミュニケーションは向上すると感じました。中でも圧巻だったのは、防災拠点としての圧倒的な機能でした。議会BCPを松本市でも作っていますが、ハード面での強化を早急にすべきと感じました。

令和6年11月5日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 大久保 美由紀

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
1 春日部市新庁舎建設について 本庁舎は新築、第二庁舎は新耐震基準を満たした旧市立病院を改修し一部利用した市役所で、新庁舎は分散されていた市民窓口を集約し、利便性が高められている。 第二庁舎は、ミーティングラボ、相談室、執務スペースといった職員が働きやすい空間設備があり、業務効率の向上が図られている。 基本方針の「環境・経済性に配慮した庁舎」では、錆に強い『チタン亜鉛合金版』を採用し、メンテナンス費用等のコスト削減により、市民の皆様や財政への負担がかかりにくくなっていると感じた。 また、新庁舎建設の建設費をクラウドファンディングで集め、寄附額は5,000万円となり、寄附者全体の約85.7%が春日部市民で、市民の皆様とともに作り上げた市役所だと感じた。 2 千葉市新庁舎建設について 千葉市新庁舎は「新しい働き方の挑戦」を掲げており、従来の背の高い什器を置かずにパーソナルロッカーの設置や、「グループアドレス」を導入し従来の固定席と違いエリアの中であれば自由に座席を選べるようになったことにより、他部署との連携等ができ業務の効率化が図られている。 最大の特徴は、総合防災拠点機能が優れており、危機管理センターのフロアはオペレーションルーム、関係機関調整室、災害対策本部会議室の3つがあり、災害等が発生した場合に迅速な対応が可能となっている。他に仮眠室や防災備蓄倉庫の整備もされていた。他には、総合防災情報システムが導入されており、いち早く市民の皆様に情報発信や避難誘導といった適切な対応を図られるようになっていないと感じた。 千葉市庁舎の防災機能を見て、本市の新庁舎建設にあたって防災拠点として災害や有事が起きてから対策本部を設置するのではなく、災害等の有無に関係なく危機管理のフロアを設置して置かなければならないと改めて感じた。		
令和6年11月6日 松本市議会議長 上條 温 様 市役所新庁舎建設特別委員会委員 西澤 郁弥		

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視 察 先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
1 春日部市 市役所新庁舎建設について 人口約 23 万人、面積 66 km²、議員定数 30 名 クレヨンしんちゃんの舞台で有名であり、各所にしんちゃんのイラストやフィギアが見られる。 (1) 概要 春日部市庁舎 令和6年1月供用開始 総事業費 112 億円 旧市立病院跡に新築され、本年1月に開庁した。旧市役所は、複数の別館、教育センター、支所、水道局などに分散していたが、今回1か所に集約された。 本庁舎は新築で地上6階、隣接の第二庁舎は旧病棟を改装し、地下1階地上6階。本庁舎の設計工事は、デザインビルドでは費用抑えられないことが判明したため、分離発注方式。 防災については、本庁舎は免震、第二庁舎は耐震構造、非常用発電機は 50%出力 72 時間。浸水対策として、1 階は3つの会議室、受付、コンビニ、会議室を設置し、執務室は2階以上、設備は3階以上に設置。外観・デザインは、グレーを基調に、モダン、スタイリッシュ、クールなデザイン。見やすくわかりやすいユニバーサルサイン採用。 環境・経済性への配慮も特徴で、メンテナンスフリー（チタン亜鉛合金板の外壁）・廊下天井板無し（手を入れやすい、天井板落下リスク減）、高断熱設備、高効率の空調、日射遮蔽する工夫（ガラス、日よけスクリーン）など、1 次エネルギー消費量を削減するための工夫が見られる。 「人に優しく、災害に強い、市民に親しまれる庁舎」を基本理念に、随所に理念が具現化されている。例えば、庁舎1階の広いロビーを「街のリビング」として、また、庁舎前の広場を「まちなかひろば・まちなかステージ」として市民が利用できるよう開放している。敷地内には、親子で過ごせるかすかべっ子ルームや、子どもライブラリなど、子どもたちが利用できるスペースも確保している。にぎわいが街の活力になるとして、市役所も市民集う場所、皆が使えるコモンスペースとしての機能を発揮、平日だけでなく、土日もにぎわいを見せている。 議場は、桐箆笥で有名なことから、桐箱のイメージ、デザインを採用。床暖房。議席にヘルメット完備。ガラス張りの親子及び車いす利用者用の傍聴席が完備。クラウドファンディングで、629 人より約 5,000 万円を集めた。寄付者の名前が受付		

に掲示されている。

(2) 所感

春日部市新庁舎は、基本理念「人に優しく、災害に強い、市民に親しまれる庁舎」が、随所に具現化されている庁舎だった。特に、市民に開かれ、市民も利活用できるひろば、会議室、子ども用のスペースなど、コモンスペースが配備されており、市庁舎が市の職員や議員だけではなく、市民の皆さまと「コモン（共有）」の財産であるといった意識や、公共施設を市民の皆さまといっしょに盛り上げて行くなどといった、市民参加の意識の醸成につながることであり、このような取り組みは必要であると感じた。

また、クラウドファンディングの取り組みも、市民や企業団体が新庁舎建築事業に自分ごととして参加できるプロジェクトであり、市民プライドを醸成することに一役買っていると感じる。

議会フロア、議場については、比較的フラットで、議席と傍聴者との距離が近かった。外が見えるロビーには打ち合わせテーブルが数か所。開放的で広々としており、使い勝手が良さそうでした。

2 千葉市 市役所新庁舎建設について

人口約 98 万人、面積 272 km²、議員定数 50 名

(1) 概要

千葉市庁舎 令和 5 年 6 月供用開始 事業費 295 億円

現地建替で敷地面積が十分あり、旧本庁舎を活用しながら建て替えに支障なし

建物 L字型 低層棟（7 階）茶色、高層棟（11 階）白壁

モノレール駅から渡り廊下で直通（令和 6 年 10 月完成）

職員数 計画時 2,065 人 完成時 2,500 人

スペース 6.2 m²/人

基本設計 プロポーザルで久米設計・隈研吾都市設計共同企業体

理念 緑とまちとみなとをつなぐシティホール

施設を集約した集約型庁舎

環境 ゼブレディ認証 コージェネレーションシステム ソーラー発電

高性能ガラス 地中熱、雨水、井水利用 壁面緑化、屋上緑化、街路樹

防災 総合防災拠点機能（防災センター、オペレーションセンター、仮眠室休憩室）、電気設備等の浸水対策（2 階以上に配置）、免震構造、オイルタンク、非常用発電機（72 時間）、防災備蓄倉庫

執務室 職員の健康に配慮したウェルネスオフィス、働きやすさを考慮したユニバーサルレイアウト、グループアドレス、職員と来庁者を区分（高セキュリティ対策）、職員専用リフレッシュエリア、オープンエリア、マグ

ネットスペース（コピー複合機や文具など共有で使用することで省スペース化し他部署との交流も促進）

その他 憩いの広場、市民ヴォイド（吹き抜け空間）、大階段、イベント、ディスプレイ、2階「薬膳レストラン」（地元産食材献立）

議場 傍聴席は上階（議員席は傍聴席から見えず）、大型ビジョン2台（傍聴席正面）、親子・車いす使用者用傍聴スペース2室（ガラス張り）

議場コンサートを第1回定例会初日に開催

(2) 所感

千葉市庁舎は、「緑とまちとみなとをつなぐシティホール」を理念に、現地建て替えし令和5年に供用開始された。駅近の場所で、モノレール駅からは直通の連絡通路がつながっている。低層棟が木質化されており、壁面緑化や街路樹などと自然になじむ外観で、各地の公共施設の設計に携わる隅研吾氏らしいデザイン。

内部は、職員の健康に配慮したウェルネスオフィスということで、高セキュリティ、ワンルームをグループアドレスで利用する効率的な配置、他部署との交流やミーティングスペース、マグネットスペースやリフレッシュエリアを配置している。執務室は、各部署、グループごとのスペースと、個人のロッカーが効率的に配備されているようで（執務室には入室していないため、廊下や受付カウンター越しに拝見）、整然としているようにお見受けした。また、白色を基調にしており、病院のようなイメージだった。

1階から2階にかけて、大きな吹き抜けのスペースは、イベントなどに使えるようになっており、視察当日はマルシェが開催されていた。来庁者や職員にとって、にぎわい創出のできるスペースがあるのは、市民とつなぐ市役所の理念に合っている。また、1階のレストランは職員も市民も利用でき、リーズナブルな料金のランチが好評とのこと。

防災機能は、東日本大震災の経験から力を入れており、常設の防災センターとオペレーションルームには最新の設備が配備されていた。

本市庁舎については、浸水対策や災害時の避難所として開放するべく、1階は広いスペースを確保し、2階以上に執務室や防災機能、インフラ断絶の際の機械配置をするべきではないかと考える。

令和6年11月5日

松本市議会議員 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 神津 ゆかり

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 市役所新庁舎建設について

春日部市と千葉市の想像力溢れるオフィス型の市役所を見ると、規模や構造は憧れを持つが、城下町松本の風情に合うかという疑問がある。

両市とも松本市にとって検討が必要な箇所について考えて造られており、耐震、免振、空間、市民の憩いと、どれをとっても参考となる市役所だった。しかし、スペースの使い方は上手いが松本市がそこまで十分なスペースをとれるとも思えない。土地面積が決まっている以上、工夫が必要で、最後市民にとって職員にとって議員にとって最高の市役所になると思う。まず市民が憩える場所が必要だが、松本には景色があるので市役所近くを歩いてもらうことで憩いにもなるのではないかと考える。駐車場は市役所の隣にあるのが必須だが、近隣の景色をしっかりと見られるようにしてほしい。

ゆとりあるオフィスとして、千葉市役所は仕切りがなく各課の風通しが良いのが非常に魅力的であった。春日部市役所は、土日に市役所を開放し利用することができる点に工夫がみられると思う。両市とも、空間を上手く利用することによって、規模を壮大に見せているように思えた。市役所はやはり街のシンボルであり、中心であり、危機管理は発信であり、着信でなければならないと思う。松本市も千葉市役所のような危機管理を考えなければ、中核都市、松本地域を牽引していく都市としての土台ではないかと考える。いくら各地区の地域づくりセンターを強化しても、危機管理だけは市役所本庁舎で行う方が良いと考える。

春日部市役所においては天井の空調が丸見えで、経費を考えた構造のためということだったが、やはり個人的には隠しておけるのなら隠したい。

議会棟や議場については、セキュリティの面からも配慮をすることが必要。傍聴人が議員と同じ目線で見ることができる工夫は必要になるだろうし、赤ちゃんや子供に対しては、保護者が安心して見ていられるように万全にする必要がある。千葉市の議場に設置された大型スクリーンは魅力的であったが、松本市の議場にどれほどの需要があるのか必要性を考えなければいけない。

令和6年11月6日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 若林 真一

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
及び	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
視察事項		

1 春日部市

(1) 概要

春日部市役所の新庁舎建設にあたっての基本理念は「人に優しく 災害に強い 市民に親しまれる庁舎」との事。

ア 人に優しい庁舎

- ・キッズスペース、子ども家庭センターなど子育て支援環境の充実
- ・大きく見やすいサイン、バリアフリースイッチなどユニバーサルデザインの充実
- ・分散化していた窓口を集約

イ 災害に強い庁舎

免震構造、非常用発電機

ウ 環境・経済性に配慮した庁舎

メンテナンスフリーの外壁や高効率空調システムの導入など

(2) 所感

子ども連れの家族が気軽に立ち寄り自由に読書や遊ぶことのスペース、マルシェやフリーマーケット、ステージを利用した音楽イベントやダンス発表など、様々な屋外イベントに利用できるスペースやレストランがある。

バックオフィスではなく、市民が様々な形で訪れ、楽しみ、市民に優しい庁舎であり、本市においても市民に配慮した庁舎が必要と考える。

2 千葉市

(1) 概要

耐震性能不足など防災面、執務室の分散化、建物・設備などの老朽化により建て替えを検討

ア 緑を繋ぐシティホール

壁面緑化、屋上緑化、景観に溶け込むデッキなど。「まち」と「みなと」を繋ぐシティホール。市民ヴォイドでのイベント開催、市民の憩いの場、来庁者が利用しやすいフロア構成など、人が集う仕掛け

イ 総合防災拠点機能

インフラ遮断対策、電気設備等の浸水対策、免震構造

ウ 環境性能

太陽光発電、高性能ガラス、地中熱・雨水利用

(2) 所感

災害対策本部会議室や関係機関調整室など、大規模災害に対応できる機能が充実していた。春日部市同様に市民が集う様々な仕掛けがあり、市民が来庁することを想定していた。また職員の休憩スペースなどは市民から見えない配慮がされ、職員の働き方にも配慮した庁舎となっていた。

本市においても職員の働き方にも配慮し、市民が来庁したくなる新庁舎となしてほしい。

令和6年10月29日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 川久保 文良

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 埼玉県春日部市

(1) 市の概要

人口約23万人と松本市とほぼ同規模であるが、面積66㎢と松本市の978㎢と比較すると約15分の1と、非常にコンパクトにまとまっている都市。都心まで35kmの距離にあり、東武鉄道の2路線が交差しており、都心へのアクセスが良いため、高度経済成長期以降ベッドタウンとして急速に発展してきた。アニメ「クレヨンしんちゃん」の舞台として有名

(2) 新庁舎建替えの経過

- H26 本庁舎移転建替え決定
- 27.5 春日部市本庁舎整備基本構想策定(移転候補地2か所に絞る)
- 29.2 春日部市本庁舎整備基本計画策定
- 29.3 定例会 春日部市本庁舎移転先決定
- 29.9～31.3 基本設計
- R元.6～3.2 実施設計
- 3.8～5.9 建設
- 6.1.4 供用開始

(3) 新庁舎の概要

旧市立病院後地に建設。本庁舎にはレストランとコミュニティ棟を併設し、旧市立病院の東棟を改修した第2庁舎からなる。

敷地面積 11,929 ㎡ 建築面積 5,383 ㎡ 延べ床面積 24,261 ㎡

- ・ 新本庁舎
建築面積 3,956 ㎡ 延べ床面積 14,771 ㎡ 地上6階 免震構造
- ・ 第2庁舎
建築面積 1,250 ㎡ 延べ床面積 6,702 ㎡ 地下1階地上6階 耐震構造
旧市立病院を改修

整備事業費 112.9 億円

(4) 所感

基本理念を「人に優しく災害に強い市民に親しまれる庁舎」とし、基本方針を「機能的で効率的な庁舎」「春日部市にふさわしい庁舎」としたことが、庁舎の構造からも随所に工夫が感じられ考え抜かれた庁舎だという印象を持った。

新本庁舎は免震構造とし、1階はピロティー式の駐車場、2階以上を執務室としている。2階へは上り下りのエスカレーターで誘う。2階が市民課をはじめとする総合窓口となっており、受付番号は随所に設置されたモニターで表示されるため、例えば子連れの母親は庁舎隣接のひだまりホール、かすかべっ子ルーム、まちなか広場で子どもを遊ばせながら書類の交付を待つことができるし、喫茶店・レストランに行きたい人は庁舎隣接の喫茶店・レストランで待つこともできる。市民にやさしい市役所である。

新庁舎の建設場所についても、3つの公的施設を順繰りに整備移転する工夫が感じられた。最初に市民病院を公園に移転新築、次に市民病院跡に新庁舎を建設し、今後旧庁舎を解体して公園を建設する予定とのこと。市街地中心部に市庁舎、病院、公園が比較的近隣に位置しているという条件に恵まれていたためにできた工夫であるが、見事だと感じた。

2 千葉県千葉市

(1) 市の概要

千葉県の中央部に位置し、千葉県の県庁所在地。都心から約 40 km、成田国際空港や東京国際空港から 25～30 km 圏内。人口約 97 万人、面積約 272 km²の政令指定都市

(2) 建替えの経過

平成 23 年（2011）の東日本大震災発生時に一時本庁舎業務が中断したことから、改めて本庁舎のあり方が問われることとなった。平成 24 年に「本庁舎整備方策検討基礎調査を実施」、平成 25 年度に千葉大学工学部による第三者評価を実施した。

平成 26 年から本格的に検討が始まった。6 月に市議会に新庁舎整備特別委員会設置、11 月に市民アンケートを経て「基本構想」策定、平成 28 年 5 月に「基本方針」策定、平成 29 年 11 月市議会特別委員会から提出された要望書の趣旨を踏まえ、概算事業費 307 億円、設計・施工一括発注による DB 方式とする事業方針が決定した。

(3) 新庁舎の概要

庁舎は低層棟（7 階）と高層棟（11 階）からなる。低層棟には来庁者の多い職場の執務室、市民センター、議会エリアを。高層棟には本庁舎機能を配置した。

千葉モノレール市役所前駅から低層棟へは直結連絡通路で接続している。

現在は駐車場及び市役所前広場を建設中

敷地面積約 29,000 m² 建築面積 6,439.69 m² 延べ床面積約 48,888.74 m²

鉄筋コンクリート造 免震構造 総事業費 295 億円

(4) 所感

千葉市は政令指定都市だけあって庁舎の規模、敷地面積、延べ床面積などは本市と桁違いの印象であった。整備中の駐車場の駐車台数 482 台は、千葉市の人口規模

からは少ないと感じたが、公共交通機関であるモノレール駅が庁舎と接続しているため、車での来庁者が少ないのであろう。

庁舎の特徴の第一は、防災拠点としての機能を充実していることである。庁舎は免震構造を採用し、非常用発電機が72時間連続運転可能な燃料を備蓄し、浸水対策として主要な電気設備機器は2階以上に設置、また危機管理センターを高層棟内に常設している。

庁舎の特徴の第二は、環境性能とユニバーサルデザインに配慮したことである。地中熱、太陽光などの自然エネルギーを活用するなど、建築物省エネルギー性能表示の最高ランク5つ星の評価を獲得した。ユニバーサルデザインでは、段差のない動線、ピクトサインの多様、ベビー休憩室、多機能トイレを全フロアーに配置するなどしている。

これら防災機能、環境性能、ユニバーサルデザインは、現在では標準仕様と断言していい機能である。加えて働く職員が働きやすいオフィスレイアウトが大切だと感じた。

千葉市は政令指定都市であるため、低層棟に市民対象の職場やホールを配置し、高層棟は市民の来庁を想定していない長野県で言えば県庁のような造りであった。

視察で強く印象に残ったのは、新庁舎建設の進め方である。庁舎の老朽化を共通認識として基礎調査を実施し、専門家の第三者評価を得て、市民アンケート実施、基本計画策定、基本方針策定、事業方針決定と、それぞれ段階を経て納得しながら着実に進めていた。本市が学ばなくてはならない点である。

令和6年12月24日

松本市議会議員 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 上條 温

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視 察 先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 春日部市新庁舎視察における考察

(1) 人に優しい庁舎

- ・本庁舎2階には、来庁者がゆったりとくつろげる「まちのリビング」が設置され、ゆとりある待合となっていた。
- ・7か所に分散していた窓口を1か所に集約し、すべての手続きが新庁舎で可能となっていた。
- ・子育て支援環境を充実させるため、キッズスペース併設型窓口や、子育て家庭や妊産婦に対する支援を行う拠点となる「こども家庭センター」を設置した。
- ・外国の方や高齢の方などにもわかりやすい大きく見やすい窓口案内サインやバリアフリートイレを設置した。
- ・議場は、議会の進行をより身近に感じられるように、議場と傍聴席を同一階に設置するとともに、ガラスで周囲を囲われ防音対策がされた親子傍聴席が設置されていた。

(2) 災害に強い庁舎

- ・本庁舎1階の柱と梁の上に免震装置を設置した。
- ・大地震や水害時でも業務を継続できるように、2階以上を執務室とし、主要設備を3階以上に配置した。
- ・停電時にも50%の電力を3時間供給できる非常用発電機を設置した。

(3) 環境・経済性に配慮した庁舎

- ・サビに強く、80年以上の耐久性を有し、長期にわたりメンテナンスが不要となるチタン亜鉛合金板を外壁に採用した。
- ・埼玉県建築物環境配慮制度(CASBEE)で最高位Sランクを取得

(4) 春日部市にふさわしい庁舎(まちのコモンスペース)

- ・さまざまな市民活動の発表の場となる「ひだまりホール」、子ども連れの親子が気軽に立ち寄れる「かすかべっ子ルーム」、さまざまな屋外イベントに利用できる「まちなかひろば」、幅広い世代の方々が交流を深めるためのレストランが設置されている。

(5) 建設費

- ・当初より2回変更し、約12億円増額の約113億円となった。
- ・クラウドファンディングの寄付者全体のうち、市民の割合は約85.7%であった。

(6) 所感

- ・バリアフリースイレには、ベビーシートの他に大人が利用できるおむつ替えシート（ユニバーサルシート）も一部設置されており、車イス用手すりなども含め、今後必要な設備であることを感じた。
- ・議場に設置された親子傍聴席は、定例会で1組が利用しただけとなっており、本市は傍聴者の年齢制限を設けておらず、必要に応じて別室での本会議傍聴も可能であることから、今後の整備計画においてはコスト面からも不要ではないかと感じた。
- ・免震構造については、球面滑り支承という金属製のプレートで、スライダーという芯材を挟み込んで、1階の柱の上と2階を切り離す構造としていた。また、揺れを吸収する鋼製ダンパーを梁の上に設置して、地震の揺れを軽減するしくみを採用していた。経年劣化しにくく、耐久性にすぐれており、装置自体がコンパクトで建設コストの削減が期待できる球面滑り支承と、万が一の地震後も交換可能な鋼製ダンパーについては、本市においても前向きに検討してほしいと感じた。
- ・レストランで食事をしながら、表示される住民票の受け取り番号がわかる仕組みであったり、土日祝日に1階部分を市民に開放するというコンセプトは驚きだった。
- ・これまで閑散としていた市役所が、市民が集う場所に生まれ変わったという話をお聞きすると、松本市が目指す「市民に身近な市役所」を具現化するためには、どのような施設や取り組みが必要なのかを改めて考える視察となった。

2 千葉市新庁舎視察における考察

(1) 緑をつなぐシティホール

屋上緑化、壁面緑化、景観に溶け込むデッキ、街路樹などを整備した。

(2) 「まち」と「みなと」をつなぐシティホール

市民ヴォイドでのイベント開催や、市民の憩いの場（屋上庭園にベンチを設置）を整備した。また、来庁者が利用しやすいフロア構成とした。

(3) 総合防災拠点機能として常設の危機管理センターを整備

(4) 環境性能

3か所に分散されていた庁舎機能を1か所に集約することで、消費エネルギーの削減を図り、ZEB（ゼブ）Ready認証を取得した。

(5) ユニバーサルデザイン

障がい者団体等からの意見をききながら整備を行った。ベビー休憩室や、議場に個室の傍聴席を設置した。

(6) フロア構成

低層棟…来庁者の多い建設局、都市局市民センター、議場等を配置

高層棟…その他の本庁機能を配置

コミュニケーションの活性化と新しい働き方の挑戦を目指し、各エリアのレイアウトを整理し、以下を導入した。

- ・壁や高い什器で視線を遮らないオープンフロア
- ・デスクの配置を統一するユニバーサルレイアウト
- ・課単位のデスク島エリアの中であれば自由に座席が選べるグループアドレス
- ・執務する職員の健康に優しいウエルネスオフィス
- ・クリアデスクに伴うパーソナルロッカー
- ・複合機や共有の文具が設置されたマグネットスペース（セキュアプリントを導入し、機密文書に配慮）

窓際エリアはA B W（適業適所な働き）を活かした働き方を後押しし、業務効率や質の向上につながっている。

市民が入ることができ利用することができるオープンエリアと、入ることができないクローズエリアに分け、ファミレススペース（マグネットスペースの横）やスタンディングコーナーはクローズエリアに設置し職員のための利用とした。

(7) 所感

- ・コミュニケーションの活性化と、働き方改革、ワークライフバランスなど、新しい働き方の挑戦を目指した各エリアのレイアウトは、非常に画期的な取組みであると思った。しかし、人口 98 万人弱の政令指定都市である千葉市の職員数との比較や、設置コストを考えると難しさを感じた。
- ・議場に設置された個室の特別傍聴席の利用も少ないようであり、費用対効果を考えると必要性はあまり感じなかった。
- ・両市とも計画決定の段階で、住民説明会等を開催して市民との合意形成を図っており、丁寧な進め方が必要だと感じた。
- ・高断熱化、Low-E ガラスの採用、日除けスクリーンの設置、高効率空調システムや地熱を利用したコージェネレーションシステム、太陽光発電などを導入して、将来にわたるエネルギー消費量を削減することの重要性を感じた。
- ・子どもから大人まで幅広い世代の人が集まり、賑わいを創出する市役所になることを期待する視察となった。

令和6年12月25日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 中島 昌子

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
及び	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について
視察事項		

1 春日部市の新庁舎建設について

(1) 概要

ア 基本理念・基本方針

基本理念は「人に優しく災害に強い市民に親しまれる庁舎」とする。

基本方針として、人に優しい庁舎、災害に強い庁舎、環境・経済性に配慮した庁舎、機能的で効率的な庁舎、春日部市にふさわしい庁舎、を目指し進めた。

人に優しい庁舎として、手続き内容に合わせた独自カウンターを設置。来庁者がゆったりくつろげる町のリビングを設置。旧本庁舎や旧別館など7か所分散していた窓口を1か所に集約した。別館には暮らしの安全課、高齢者支援課があったが、1か所に集約することによって新庁舎で全ての手続きができるようになった。子育て支援環境を充実させるために、子ども未来部の窓口カウンターにキッズスペースを設置。子育て家庭や妊産婦の支援拠点となる子ども家庭センターを設置。ユニバーサルデザインの充実として、数字やアルファベットを用いた大きく見やすい窓口案内サインとするとともに、本庁舎の1階から5階までの各階、そして第2庁舎の2階と5階にバリアフリースイレを設置。議場については議会をより身近に感じていただけるように、傍聴席を同一階に設置。ガラスで囲われた親子傍聴席を設置するなど多くの方が傍聴できる環境を整備。

災害に強い庁舎として、本庁舎1階の柱及び張りの上に免振装置を設置するとともに、停電時にも3日間電力を供給できる非常用発電機を設置。免震構造の特徴としては、球面滑り支承という金属製のプレートでスライダーという芯材を挟み込んで1階の柱と2階を切り離す構造とした。鋼製ダンパーという地震の揺れを吸収するダンパーを採用。球面滑り支承の特徴は、金属のため耐久性に優れており数百年に一度の地震が数回発生しても免震構造に影響なし。コンパクトで取り付け部分も小さく、コンピューター制御の高精度の機械加工を施しているため品質的に安心。鋼製ダンパーの特徴は、繰り返しの揺れへの耐久に優れていることや、様々な方向からの揺れにほぼ同等の復元対応できる。地震後の損傷程度を目視で確認でき、地震後もダンパーを交換できる特徴がある。

災害に強い庁舎として浸水対策として、本庁舎の2階以上を執務室とする。中央監視装置や受電設備など主要設備は3階以上に設置。送電トラブルに対応できるよう2回線受電方式を採用。断水時、雨水や井戸水の利用によりトイレの水を

確保。

環境経済性に配慮した庁舎として、メンテナンスフリーの外壁を採用。本庁舎の外壁はさびに強く 80 年以上の耐久性を有す、厚さ 0.7m のチタン亜鉛合金板を採用。これは経年により塗り替えや接合部分の補修が不要。旧建物の改修で建設コストの削減、ピロティ駐車場とすることで立体駐車場にすることなく確保できた。環境配慮として埼玉県建築物環境配慮制度最高位の S ランクを取得。評価のポイントとしては、①省エネ、環境配慮、②耐震性能、③BCP 採用、④街並みとの調和が評価された。建築物省エネルギー性能表示制度も最高ランクを取得。本庁舎だけ、外壁面や屋根の高断熱化や Low-E ガラス、日よけスクリーン高効率空調システム導入等で、1 次エネルギー消費量を 53% 削減

春日部市にふさわしい庁舎として、まちのコモンスペース設置、様々な市民活動の発表の場となるひだまりホール、春日部っ子ルーム、街中ひろば、レストランで構成。親善大使のライブ、キッズダンス、中学生の吹奏楽の演奏をここで行なった。にぎわいあるイベントができた。1 か月に 1 度はこの広場を使ってイベントを行なっている。

イ 建設概要

建設場所は旧市立病院があった場所。春日部駅から徒歩で 13 分

西側にレストラン棟とコミュニティ棟を併設した本庁舎。東側には旧市立病院をリノベーションした第 2 庁舎。左折イン左折アウトの出入り口が 2 か所、本庁舎の 1 階はピロティ駐車場という屋根付き駐車場

全体で延べ床面積 24,000 m²

本庁舎の延べ床面積は駐車場含めて 17,300 m²

地上 6 階 鉄骨一部鉄筋コンクリート、免震構造

第 2 庁舎は延べ床面積 6,700 m²

地下 1 階地上 6 階、鉄筋コンクリート一部鉄骨、耐震構造

建設費は 113 億円。インフレスライドや物価上昇、コロナ、ウクライナ侵攻での資材の高騰等で 2 億円上昇

ウ 質疑への回答

別館は、解体して公園に。第 2 別館は医療センター、倉庫、会議室。第 3 別館は解体。教育センターは埼玉県鉄道高架事務所に、総合支所は保健センターに、3 つの民間ビルの賃貸借は解除。

市民からの反応は、手続きを 1 か所でできるようになって良かったと大変喜ばれている。職員も議会や会議の際に移動がなくなって時間の無駄がなくなった。人に優しい庁舎としてユニバーサルデザインを採用し、段差解消、トイレにユニバーサルシート、ベビーシートを付け、大人がおむつを替えたりできるベッドも用意した。車いす駐車場の他に、妊婦や障害のある方が利用できる優先駐車ス

ースを設けている。

断熱性向上、空調設備の改善で、夏は涼しく冬は暖かい快適庁舎となり、市民及び職員から大変喜ばれている。LED照明により執務室が明るくなって良かったとの反応も。

ひだまりホールとまちなかひろばの利用状況だが、ひだまりホールは 150 人が収容でき飲食・飲酒が可能なスペースであることから、多くの利用がある。まちなかひろばでは、月 1 回マルシェやキッチンカーなどのイベントが開催され、8 月は納涼祭を行い、千人以上の来訪者があった。周辺に飲食店がない事もあるが、新庁舎の手ごたえとして、これまで閑散としていた市役所がにぎわって生まれ変わったと感じる。

将来の職員数への試算については、一人当たりの床面積の設定根拠について、基本設計時は 735 人とし、将来の職員数は見込まず、総務省の基準による庁舎標準面積、国土交通省の算定基準や他市の事例を参考に、庁舎面積を 21,000 m²とした。

感染症への対策は、椅子の座面に消毒できる生地を採用、執務室の机などにアクリルパーティションを付けられるようになっている。三密回避のために待ち合いを広くし、執務室はネットワークを無線化することにより会議室や多目的スペースなどで業務を行なえるようにしている。

災害時には会議室が災害対策本部になる。そのため、情報収集のためのテレビ、電動スクリーン、電動プロジェクター、60 インチの大型ディスプレイを 2 台設置した。

議場の他用途の使用は、議員の勉強会、高校生対象の議会報告会など。高校生対象の議会報告会は昨年 3 校、今年度 4 校。

親子傍聴席の利用実績は集計してないが、3、6、9 月定例会で各 1 組

建設費をクラウドファンディングで集めたが、周知方法は広報や SNS。新聞記事を見た方から多くの問い合わせがあった。寄附者のうち市民は 87%

本庁舎の職員数は 735 人想定で、現在 800 人くらい。水道部を集約。ハーフタイム勤務など含めると 1,000 人位。本庁舎以外の部署と職員数は、昭和総合支所、公民館、消防、保育園。職員総数は 2,500 人

市民対象説明会で合意形成。市民を含めた検討、審議会はない。議員有識者を入れた検討会はあった。

チタン合金の提案は設計事務所からの提案。免振は耐震よりコストが上がっている。

市域について、本庁舎まで遠いところで車で 30 分。支所は 1 つのみで市民課的な窓口業務を行う。他の部門は本庁に引き上げているため本庁舎はお客さんが多い。

土日開放のコンセプトは議員や庁内からの意見。春日部っ子ルームは当初は土日は開放していなかったが、市民の意見で開放するようになり土日にもぎわっている。

20,700 m²。最終 24,000 m²増えた部分は駐車場も入れて。事業方式は直営で。当初デザインビルド方式を考えたが、オリンピックなどで経費が抑えられないとの意見があり、切り離し、直営とした。

(2) 所感

視察してよかったと思った点は、①5つの基本方針が分かりやすく明確だった点、②集約型であること、③直営であること。

5つのコンセプトはそれぞれに現代の課題を網羅しています。市民の利便性や分かりやすさを重点に、分散していた機能を集約型にした点は私たちも目指すところ です。

直営はDBOやPFIの採用が広がりつつある中で、公的役割に引き戻す結果につながったことは共感するところでした。

土日の開放は考えてもみない新たな方向性で、開かれた市役所のイメージ作りにつながっていると思います。

庁内を実際に見させていただき、傍聴席がフラットであることや親子席の設置など、だれもが同等に参加できるという平等感を持っていることも、率直に「あ、いいな」と思えました。

耐震性能は国土交通省の1s値を採用し、0.3以下の診断結果を用いていました。この点は本市でどのような判断基準を用いているか、研究が必要と感じました。

ありがとうございました。

2 千葉市の新庁舎建設について

(1) 概要

ア 基本構想・基本理念

3点の基本理念をもとにあるべき姿を定めている。

(ア) 将来の変化への柔軟性の確保

行政組織の変更、業務内容の変化に対応できること、保全性と経済性

(イ) 通常業務の遂行性の確保

ワンストップでの対応、利便性、機能性、環境性能、安全確保

(ウ) 非常時の業務継続性の確保

耐震性、業務継続性

行政機能として分散していた本庁機能を集約し、市民が訪れる部署を低層階に配置。職員が働きやすいようフロアや間仕切りなど可変性あるものに。

市民には市民情報室の位置に配慮。非常時に移行できる機能転換性を考慮

議会は請願者等のための相談スペースや、傍聴者のためのロビー設置などに十分配慮

災害対策は高潮や津波にも対応。揺れやすさについては「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」を用いて目標を設定。その他、液状化にも配慮。危機管理センターを設置している。

環境性能では再生可能エネルギーの技術を採用。

イ 執務スペース

新庁舎で大切にしたいコンセプトは、コミュニケーションの活性化として部署を超えた連携促進。新しい働き方として、ペーパーレス、自席以外の適業適所、スペース効率。エリアを魅力的に、マグネットスペース、窓側、リフレッシュなど機能別エリアを設定。職員の席はオープンプロアで、全員同じ環境。職員不在時は他の職員が利用しグルーピングできる。

マグネットスペースは、複合機や共用文具を設置。打ち合わせや作業が効率的になるよう様々な形態を導入している。

執務室から直接向かうことのできるリフレッシュエリアも設置。

ウ 建設概要

平成26年時点の職員数 2,065 人として、国土交通省の算定基準で算定、延べ床5万㎡とした。実際の建築概要では、延べ床面積 48,888 ㎡、295 億円で㎡単価は約 60 万円

総合防災拠点は職員用から本部用まで3室に分かれる。免震構造、電気設備の浸水対策。ZEB Ready認証取得で、自然界からのエネルギー消費を50%以下にしている。壁面緑化、屋上緑化に配慮

議会棟は親子の個室傍聴席を設置

(2) 所感

統合型庁舎である点がまず共感でした。

職員の働き方改革に重点を置き、働きやすいだけでなくストレスをため込まない工夫にかなり力を入れていると感じました。半面市民にとっては少し近寄りがたいイメージの窓口もあったという印象です。

災害への対策や、環境性能への取り組みは先進的でした。

市民が集まれる仕組みも意識していて、これからの市役所のコンセプトのなるだろうと感じました。

ありがとうございました。

令和6年11月5日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 犬飼 明美

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 春日部市 市役所新庁舎建設について

(1) 概要

令和5年9月に竣工し、令和6年1月に開庁した新庁舎が、2024年度グッドデザイン賞を受賞。

コンセプトとして、①分散していた窓口の集約、ゆとりの待合、ユニバーサルデザインの充実と言った「人に優しい庁舎」 ②免震構造の元、2階以上に執務室や非常用発電機を設置した「災害に強い庁舎」 ③メンテナンスフリーの外壁を備え、本庁舎の高断熱化等により消費エネルギーの削減を求めた「環境・経済性に配慮した庁舎」 ④交流の場としてのコモンスペースを設置した「春日部市にふさわしい庁舎」 以上の基本的機能により「人に優しく災害に強い市民に親しまれる」新庁舎を計画。そして、コモンスペースの公共空間や、リスク回避の2階以上の執務室が評価され「2024年度グッドデザイン賞」を受賞した。

(2) 考察

くらしの安全課等8課、高齢者支援課等3課、リサイクル衛生課等8課1委員会、教育委員会8課、公園緑地課、上下水道部2課等の分散していた窓口を新庁舎に集約した。

キッズスペースや、こども交流スペースに窓口を併設したり、窓口案内サイン、桐箱をイメージした議場、そして、80年以上のメンテナンスフリーの外壁等が特色としてあり、カフェブルーミーズが地域の魅力を醸し出し、コモンスペースと共に市役所の堅いイメージを一新したように思える。

春日部市のコモンスペースのあり方は、松本城と繋げる事を思えば、松本市役所には当然求められるものだと思う。

2 千葉市 市役所新庁舎建設について

(1) 概要

令和5年1月に引き渡された新庁舎は、「緑をつなぐシティーホール」として、みなと公園や街路樹、壁面緑化、屋上緑化、さくら広場等と一体化した自然と共にある構成や、「まちとみなとをつなぐシティーホール」として、市民ヴォイドでのイベント開催、自然を感じる緑の施設での憩いの仕掛け、低層等に配置された利用しやすいフロア構成等を市民との繋がりとして意識。

その上に立って、各エリアにおいてコミュニケーションの活性化と、ペーパーレス、スペース効率によるコスト削減と言う新しい働き方の挑戦や、自席の概念のないエリアレイアウトでの、適業適所での生産性の向上を計っている。オフィスのあり方として、視線を遮らないオープンフロア、その中に、デスク配置を統一したユニバーサルレイアウトの同環境で一体感。

デスクには、部署別の範囲内で個人、課、フリーのアドレスがあり、その中でフリーに仕事ができる。また、ウェルネス環境として、引き出しのない大伴テーブル型のデスクとロッキングチェアを導入し、パーソナルロッカーを重視。セキュアプリントの複合機が整備されたマグネットスペースがワークデスクからアクセスしやすい場所にあり、共用効率が向上。窓際エリアには適業適所としての、ソロワーク、デュオワーク、グループワークが可能な什器が整備。その他に、ソファでカジュアルに情報交換ができるファミレススペース、スタンディングミーティングができるスタンディングコーナー、来庁者等との打ち合わせ用のオープンエリア、共用通路を通る事無く行き来ができる、リフレッシュエリアの設置。

総合防災拠点機能として、災害時にも業務ができるよう72時間対応の非常時発電機等が2階以上に設置。

環境性能として、快適な室内環境、省エネ等で、一次エネルギー消費量が50%以上削減されている建物として、ZEB Ready認証の取得

ユニバーサルデザインとして、わかりやすいサイン、多様な来庁者用トイレ、ベビー休憩室、子供連れ用傍聴席、補助犬用トイレ等を、市民意見を聞きながら整備
低層棟には、市民が多く訪れる部署やレストラン、売店、市民センターが配置
建て替えに当たっては、防災機能面、庁舎分散化による借上料、建物の老朽化等に課題があったが、上記の視点で解決した。

(2) 考察

低層階の設備のあり方は、市民目線から、市民の利便性から、こうあるべきだと思う。届けや発行はワンストップで行えるようにしながら、相談窓口にはプライベートスペースの設置を思わなければならない。

執務室のあり方は、職員が今後数十年先まで耐えられるような状況にするべきで、千葉市のあり方も参考にしたらと思う。

執務状況を市民目線にさすか、さらさなくても良いのかは、職員間でよくよく議論して頂きたい。両市とも、ほぼ、上手に遮蔽されていたように感じた。

3 所感

春日部市、千葉市といった産業都市的な場所では、真四角な建物の方が効率は良いし、メンテナンスフリーな外壁も、さすが技術大国と思う。しかし、80年ものメンテナンスフリーは、携わる業者、職人育成や経済面から如何かと思う。

我が郷土松本市は、国宝を間近に見る立地であり、そこには 400 年の継続する城下町風情が色濃くあり、住民は基より、松本市を訪れる人々も、城下町を探求しながらその風情を感じ取るのだと思う。松本城の真ん前に立つ市役所に、400 年のお城城下町が感じられないのでは、寂しさ一入である。出来得ることであれば、中町に求めた城下町風情を、市役所に求めたいと思う。

外壁は、お城風情、特には、小屋根があり、ガラス窓の中は、障子戸での昔ながらの温湿度調整を行い、小屋根がある事からの窓ガラス清掃においては、回転式にして、中で清掃が出来る形式を、市と業者で開発し、特許まで取得すれば解決すると思われる。

千葉市役所では、外光遮断はもちろんの事、廊下と執務室境のガラス窓も、ブラインドカーテンで全て覆われていた事が特に気になった。都会の設計感性としては仕方が無いのかも知れないが、地方の感性、特に城下町の感性として、民間の中町に求めた感性を、お城の横に立つ市役所には当たり前に求められるのではないかと思う。

令和 6 年 10 月 21 日

松本市議会議長 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 太田 更三

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察		令和6年10月17日(木)・18日(金)
視察先 及び 視察事項	埼玉県春日部市	市役所新庁舎建設について
	千葉県千葉市	市役所新庁舎建設について

1 春日部市 市役所新庁舎建設について

春日部市では昭和45年建設の旧庁舎（旧耐震基準）の老朽化に伴い、4つの視点を重点的に考慮した庁舎としている。

- ・人に優しい庁舎：手続きに合わせたカウンターやゆとりある待合、分散していた窓口の集約、ユニバーサルデザインの充実
- ・災害に強い庁舎：免震構造の取り入れ、浸水対策として2階以上を執務室とする、非常用発電機の設置
- ・環境・経済性に考慮した庁舎：メンテナンスフリーの外壁、高断熱化等によるエネルギー消費量の削減
- ・春日部市にふさわしい庁舎：交流の場となる「まちのコモンスペース」の設置

基本的確認事項として、同市の市域は65km²と狭く、且つ、域内の標高差が殆どない。行政施策の波及性としては地域性をさほど考慮する必要がないものと考えられる。従って全ての機能を集中させることが最善の策であることは論を待たない。

以下具体的に参考となる点について記載する。

- ・メンテナンスフリー（チタン亜鉛合金）外壁の採用
- ・免震構造（球面滑り支承、鋼製ダンパー）の採用
- ・雨水のトイレ洗浄水利用方式の採用
- ・まちのコモンスペースという考え方（まちなかひろば、レストラン棟、コミュニティ棟）

一方、庁舎規模について、将来職員数は考慮せずに設計したとのことだが、この部分は最適規模を求める必要があり、本市にあっては、十分に考慮すべきである。

2 千葉市 市役所新庁舎建設について

千葉市は政令市であり殆どの市民サービスは区役所で完了するため、市役所本庁舎は市民接遇という面では、比較的反映する内容が少ないと言える。

特に重要と感じた点は、庁舎規模設定に当たっての職員一人当たりの面積計算のプロセスである。将来的な自由度を十分考慮した内容であり、本市でも是非とも採用して欲しい。

フリーアドレス方式、自己所有書類等の保管用個人ボックスは採用すべきと考える。リフレッシュエリアの設置は必須ではないかと考える。

危機管理センターは政令市では必要と考えるが、本市規模で庁舎スペースが限られる中では設置は難しいのではないかと考える。

人が集う仕掛けとして、市民ヴォイドでのイベント開催や市民憩いの広場の設置は庁舎機能として考えてもいいと思う。

3 所感

2市の共通点として、市民が気軽に集いあう場所としての機能を充実させていることがあると思う。この点は本市でも十分に考慮検討して欲しいと考える。

令和6年11月6日

松本市議会議員 上條 温 様

市役所新庁舎建設特別委員会委員 近藤 晴彦